

F-41 インフレーションと家政学  
県立新潟女経大 柳原文一

目的 インフレーションは家庭生活に、生活設計に重大な影響を与える。家政学の実践科学であるとするのは、これに無関心でいてはいけぬ。しるは現在の家政学はほとんどこの問題に取り組んでいない。これをどういうことであろうか。家政学の本質・体質はこれをこの問題を究明してはこうとする。

方法 思弁的方法による。

結果 家政学は家庭生活の維持・向上を研究する実践科学ではないであろう。そのため現在までのように食物・被服のみを偏してはいる。家庭内で処理する問題はありでなく、家庭を取り巻く環境(自然および社会)の改善も取り込まぬはである。したがって従来のような自然科学的基礎はありでなく、経済・法律・社会・政治等の社会科学の知識・方法を必要とする。こういふと、それでは余りな範囲の狭くはなつていける雑学になつてしまふのではないかという反論は出て来るであろう。この反論に對して私は医学との比較を提言する。医学はあらゆる病を癒すために、そのために必要な基礎知識を駆使する。インフレは一般の家庭生活にとつて好ましくはないとするのは、これを熟知し、沈静させる方法を研究しなげなからぬ。インフレは社会的問題であつて家庭内ではどうにもならぬとするのは、インフレの原因・機構を研究し、社会的・政治的方法を用いてそれを取り組むべきである。現在のインフレは大量生産、大量消費、輸出過多の最も大きな原因であると考えられるので、この態勢をいかに改めさせるかを生活を中心として研究すべきではない。